

Greig, T. Watson

Ladies' old-fashioned shoes.

Edinburgh, David Douglas, 1885.(文献番号4-7)

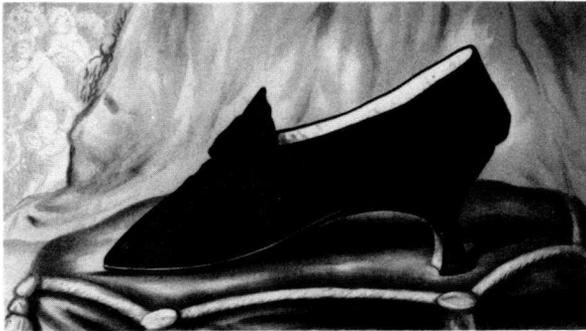
Hiler p.395 Colas 1312 Lipperheide 1744

グレイグ著

古風な婦人靴

グレイグは、当時スコットランド中央部のパース州の文芸・好古家協会の副会長をしており、グレイグ自身婦人靴の収集家であった。本書は、グレイグの収集した婦人靴11点を、横長(44×28cm)の色刷り石版にし、解説を加えてまとめた見事な図集である。細工、デザインのすばらしさを見せるためにほとんどが実物大に描かれていて、着用者もはっきりしている点で貴重である。

時代は、16世紀末から19世紀初期にわたっており、これだけすばらしい靴の図集は、今後も期待することは難しいと思われる。各図版に付けられた解説は、その靴の所有者(3点は不明)



とその時代、素材、デザインについて記されている。巻末の付録も有益である。その内容は、①リノクス卿 W.P. Lennox の「靴の今昔」という簡単な前文、②エディンバラ古代博物館所蔵の靴、③R.ヒースによる「1883年のパリのクリュニー博物館での靴の展覧会について」、④イブリンの日記に記された「ウェストミンスター寺院の絵画に現われた靴について」の4項目である。



図・上は、スコットランドの女王で、美しく悲劇的な生涯をとじたメアリー・スチュアート(Mary Stuart 1542-1587)の所有と思われる無地の黒サテン製の靴。著しく小型で、

シンプルなものにも歴史的な古さのために、好古研究家にとっては貴重な靴である。図・下は、チャールズ2世(1660-1685)の時代のラングリー嬢(Miss Langley)所有の靴。美しい刺繍と優美なレースで飾られた淡い色のシルク製。甲の部分に飾られた1つのパールがアクセントとなり、当時の靴職人の器用さと見事さがしのばれる。